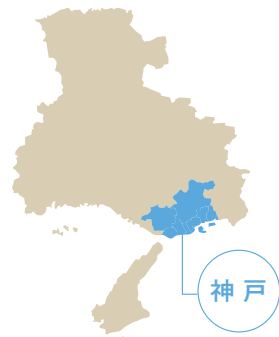


# 神戸の魅力

## 神戸港開港がもたらした豊かな生活文化

人口約153万人を擁する日本有数の大都市、神戸市。神戸のまちの魅力としてだれもが挙げるのが、海と山が近いことです。人口が集中する臨海部、瀬戸内海国立公園にも含まれる豊かな自然を持つ六甲山、そして六甲山北側に広がる農村とニュータウンが混在する街並み。独特の地形は他の大都市にはない多様性を生み出しています。例えば、古来より和歌に多く歌われ、い



にしへの時代から観光地として栄えた布引の滝をはじめ六甲山系がもたらす自然、地形は多くの人をひきつけてきました。さらに、六甲山の北側にある日本三名泉の一つに数えられる有馬温泉は、豊臣秀吉に愛された歴史を持っています。



六甲山系は身近でありながら豊かな自然や景観を楽しめる。布引の滝は古くから知られる景勝地だ

もともと現在の兵庫区南部の港に高僧の行基が8世紀に港を築造したのがまちの礎で、その後、<sup>おおわだの</sup>大輪田<sup>とまり</sup>泊として発展を遂げました。この兵庫津の港は江戸時代に一大物流拠点としてにぎわい、2018年に県政150周年を迎えた兵庫県の初代県庁も近くに設置されました。神戸が近代都市として発展を遂げたのは、

1868年に兵庫津から現在の神戸港に港が移されて以降のこと。

神戸港の発展とともに港にまつわる様々な産業が発展を遂げました。海運や貿易業のほか、いわゆる重厚長大産業と呼ばれる鉄鋼、造船、機械産業も、港を生かした重量物の運搬を考慮して、当地に集積していきました。また、港から海外への輸出品として隆盛を極めた真珠加工、ケミカルシューズ製造の拠点となり、神戸に根付いた欧米文化はその後ファッションや洋菓子の勃興へとつながっていきました。また、旧居留地跡に残る洋館や山手に建つ異人館は神戸ならではの街並みを演出し、観光産業の発展にも寄与しています。

また、神戸港の存在は文化の面でも大きな影響をもたらしました。国内で初めて神戸にもたらされたものとして映画やゴルフ、近代洋服などが知られており、なかでもジャズは今なおその伝統が引き継がれ、毎年恒例のイベントが開催されるなど「ジャズの街神戸」が定着しています。

## 新たな医療技術を生み出す拠点に

欧米文化との融合で定着した洗練されたまちのイメージは1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で大きく傷つくこととなります。とくに港湾の甚大な被害は、神戸港離れを引き起こし、現在は、大阪港と一体と



有馬温泉は全国的にも知られた名湯。歴史を感じさせる街並みを散策するのも楽しい



神戸が国内発祥とされるものは多い。ジャズもそのひとつで、今でも盛んに楽しんでいる



神戸医療産業都市の取り組みにより、ポートアイランドには医療関連機関や施設の集積が進んでいる



スーパーコンピュータ「京」は世界トップクラスの計算性能を誇り、さまざまな研究に利用されている

専門病院群の集積が進み、我が国最大の医療産業クラスターに成長しています。また、iPS細胞（人工多能性幹細胞）を用いた世界初の網膜シート移植手術の実施をはじめ革新的な研究成果・医療技術を生み出す体制が整いつつあります。

### デザインでまちのにぎわいを作る

2008年10月16日、神戸市はユネスコ創造都市ネットワークのデザイン都市に認定されました。これをきっかけに進められているのが「デザイン都市・神戸」の取り組みです。テーマは「住み続けたいまち、訪れたいまち、そして、持続的に発展するまちをめざして、すべての市民が、

なって国際競争力を取り戻す取り組みが進められています。また、2006年に開港しさらなる活性化を目指す神戸空港も合わせた、陸海空のアクセスの良さを生かしたまちのPRを進めています。

産業面での新たな取り組みが、神戸医療産業都市です。震災をきっかけに新たな成長産業として医療関連産業に着目し、医療機関、研究機関、企業の集積を図ることによって「市民福祉の向上」、「神戸経済の活性化」、「国際社会への貢献」を目的とするプロジェクトです。現在、神戸ポートアイランド2期地区周辺に「先端医療センター」「理化学研究所 生命機能科学研究センター」「神戸臨床研究情報センター」「スーパーコンピュータ『京』」などが集積し、中央市民病院の周辺には高度専門

神戸の持つ強みを生かし、デザインによって新たな魅力を“協働と参画”で創造する都市」。神戸がこれまで多様な文化を受け入れ、融合し、新しいものを生み出してきたプロセスを再確認し、まちのデザイン、くらしのデザイン、ものづくりのデザインに多様な市民がかかわることを通じて、まちのにぎわい、人のつながりが生み出されることが期待されています。

2017年1月1日、神戸港は幕末の開港からちょうど150年を迎え、2018年7月12日には兵庫県が誕生してから150周年を迎えました。県庁発祥の地である兵庫津をはじめ、神戸のまちでは、今後の方向性を考えるきっかけとして数多くの記念イベントが開催されました。兵庫区の新開地商店街には落語や演芸が毎日楽しめる「神戸新開地・喜楽館」が誕生し、新しい文化・伝統芸能の拠点となっています。一方、港湾地区では新たにホテルが稼働するなど、港ならではの景観や立地を生かした整備が進んでいます。今後、ますます神戸のまちの可能性が広がっていきます。



北野の異人館群は定番の観光スポット。なかでも風見鶏の館はよく知られている異人館のひとつだ



上方落語2つ目の定席として誕生した神戸新開地・喜楽館では、落語や演芸が毎日楽しめる



初代県庁の所在地であった新川運河にスマートフォンを向けると、現地の風景と重ねて往時の姿が再現されます